

## 乳幼児をもつ母親の育児不安と学習

牧野 カツコ (横浜国立大学)

## 1. はじめに.

乳幼児期の子どもをもつ母親が、社会的な活動や学習活動などに参加する機会は、他のライフサイクル期の婦人にくらべると、今日の日本では著しく少ない。

子どもが小さい間は母親は育児に専念すべきであるという社会的な通念は非常に強く、母親自身も、子どもが小さい間は、家庭の外での活動はできないしまた、するべきではないと考えている場合が多い。しかし、母親は誰でも、家事育児に専念しさえすれば、それで十分良い子育てができるのであるのか。

乳幼児を抱えた時期はただでさえ母親の生活範囲は狭くなりがちで、とりわけ都市の核家族の母親達は、孤立感や育児についての悩みや不安を強めやすい状況にある。

若い母親達の育児経験の乏しさ、都市化にともなう核家族の増大や孤立化、子どもの問題行動や病理現象などの増加と情報の氾濫、——これらの状況は、育児や子育てについてのさまざまな不安を広げる要因となっているだろう。

本研究では、乳幼児をもつ母親の意識や生活上の問題点を分析するために、育児における〈不安〉の問題に着目したい。育児のやり方や結果、子の現状や将来に対する漠然とした恐れと言ふ情緒の状態を、ここでは〈育児不安〉(anxiety in child rearing)と呼ぶことにする。これは、日々の育児の中で生ずる心配や悩みが、解消されないままに持続し、蓄積されていく状態と考えることができる。したがって育児不安が増大し著しい場合は、労働における疲労の蓄積(過労)が作業能力の低下や作業ミスの増加などの影響を生じると同じように、育児においても当然、何らかの有害な影響が生じることが推測される。

育児不安の反対概念としては、育児に対する自信や満足感、幸福感などにつながる情緒の状態を考える。

## 2. 研究の目的.

乳幼児期の子どもをもつ母親の育児に関する不安の程度や特徴を明らかにするために、まず育児不安を測定するための尺度を作成する。

この尺度により、都市の乳幼児をもつ母親の育児不

安の実態を明らかにし、母親の生活や意識のあり方と育児不安が、どのように関連しているかを検討する。とりわけ育児不安を高める要因および、育児不安を減少させ育児への自信や満足感を増やす要因として、母親自身の社会活動や社会関係の広さの向題について考察する。

## 3. 調査の方法および内容.

## (1) 育児不安測定尺度の作成.

労働科学研究所作成の「蓄積的疲労徴候調査」を参考に、育児に関する不安徴候として次の5つの特性をとりあげた。Ⅰ. 一般的疲労感、Ⅱ. 一般的気力の低下、Ⅲ. イライラの状態、Ⅳ. 育児不安徴候、Ⅴ. 育児意欲の低下。以上の5つの特性にあてはまる情緒や意識の状態14項目を選び出し、表1に示すような評定尺度を作成した。(Nはネガティブな感情を示すもの、Pはポジティブな感情を示すもの) N項目は、「よくある」を4点、「時々ある」を3点、「ほとんどない」を2点、「全くない」を1点とし、P項目については逆に「よくある」を1点〜「全くない」を4点として得点化した。14項目の総合計点を個人の育児不安度を示す得点とする。得点が多いほど不安度が高く、少ないほど不安度が低く育児への自信や満足感があることを示す。

## (2) 調査項目.

育児不安に関連することが予測される次の要因について調査を行った。

- ① 母親自身の要因 — 年齢、職業の有無、等。
- ② 家族の人間関係の要因 — 家族形態、夫との関係、子どもの数、年齢、父子関係 など
- ③ 母親自身の意識に関する要因 — 子どもとの一体感の程度、性別役割分業意識、など
- ④ 母親の生活のあり方、—— 充実感を感じるとき趣味の有無、趣味のためにさく時間の量 など
- ⑤ 母親の社会活動と社会関係、—— 近所づき合いの広さと深さ、友人関係、学習活動 など。

## (3) 調査対象、調査時期.

横浜市内に住む3歳以下の子どもをもつ母親約400名。(乳幼児家庭教育センター、家庭教育研究所、私立幼稚園などを通して配布)。調査時期は昭56年10月。

表1 育児不安尺度

この頃あなたは、次のようにお感じになることがありますか。例にならってそれぞれあてはまるところに○印をつけてください。

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない	
(例) 一日がとても短いと感じる。		○			
① 毎日ぐたぐたに寝れる。					(N) 一般的 疲労感
② 朝、目ざめがさわやかである。					(P) 一般的 気力の低下
③ 考えごとがあっくうでいなくなる。					(N) 一般的 気力の低下
④ 毎日いつか緊張感がある。					(P) イライラの 状態
⑤ 生活の中心ゆとりを感じる。					(P) イライラの 状態
⑥ 子どもがわすらわしくて、イライラしてしまう。					(N) 育児不安 の程度
⑦ 自分は子どもをうまく育てていると思う。					(P) 育児不安 の低下
⑧ 子どものごとで、どうしてもかわりかたなくなることがある。					(N) 育児不安 の程度
⑨ 子どもは結構一人で育っていくものだと思う。					(N) 育児不安 の程度
⑩ 子どもを置いて外出するのは、心配で仕方がない。					(P) 育児不安 の低下
⑪ 自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう。					(N) 育児不安 の程度
⑫ 育児によって自分が成長していると感じられる。					(P) 育児不安 の低下
⑬ 毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う。					(N) 育児不安 の程度
⑭ 子どもを育てるためにがまんばかりしていると。					(N) 育児不安 の程度

イラしてしまう (85.4%)  
 ⑤ 考えごとがあっくうでいなくなる。 (81.3%)  
 ・「不安なし群」の特徴  
 ① 自分ひとりで子どもを育てているのだという圧迫感がない (97.8%)  
 ② 育児によって自分が成長していると感じられる (95.7%)  
 ③ 朝めざまめざまやかである (91.4%)  
 ④ 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思わない (90.3%)

4. 調査結果および考察

(1) 育児不安尺度の有効性

14項目を合計して算出した育児不安の得点は、調査の結果、49点から19点にわたって分布し(平均32.9)ほぼ正規分布に近い形を示した。調査対象者364名につき、得点の高い方から25%以下を不安度の高い群(不安あり群)、低い方から25%以下を不安度の低い群(不安なし群)とした。不安あり群は、49~36点までの96名、不安なし群は19~29点までの93名。

14項目の有効性の判定のためこの2群の回答につき項目分析を行った結果、④の項目については $p < 0.025$ 、その他の項目についてはすべて $p < 0.005$ の危険率で有意差がみられ、14項目はいずれも育児不安の測定尺度として有効であることが確かめられた。

(2) 育児不安の特徴

「不安あり群」と「不安なし群」の回答のパターンはあざやかな違いをみせており、乳幼児をもつ母親の情緒の状態に着しい差があることが明らかになった。

14項目のうち、「よくある」「時々ある」に回答した人の割合の高いものから順に5位までをひらけと、各群の特徴が読みとれる。

・「不安あり群」の特徴

- ① 子どものことでもどうしてもかわりかたなくなることがある(92.7%)
- ② 毎日ぐたぐたに寝れる(91.7%)
- ③ 毎日毎日同じことのくり返ししかしていないと思う(89.6%)
- ④ 子どもがわすらわしくてイラ

⑤ 子どもは結構一人で育っていくものだと思う(88.2%)

(3) 母親の生活のあり方と育児不安

不安あり群と不安なし群の比較から、育児不安に関連する要因をまとめると、表2のようになる。

- ① 育児不安の程度は、母親の年齢や、子どもの数、家族形態、などとの関連がみられなかった。
- ② 母親の育児不安の程度に関連する大きな要因は一つに夫婦関係であり、他の一つは母親の社会的な人間関係のあり方であった。
- ③ 母親が、家族以外に近隣や地域などの人びとと広く、深い人間関係をもつことは、育児不安を低めることと関連することが明らかになった。
- ④ 母親が、子どもから離れて自分の時間を持つこと、趣味のための時間をもつこと、社会活動や学習のために外に出る機会をもつことは、育児不安を低める、育児に対する自信や満足感を高めることと関連していることが明らかになった。以上の他にも、調査の結果から乳幼児をもつ母親の生活や学習のあり方について、いくつかの示唆を得た。

表2 母親の生活のあり方と育児不安

育児不安と強い関連がみられた項目*** p<0.01	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どものことについて家族以外の人と話す機会の有無と人数</li> <li>○近所づき合いの広さ</li> <li>○社会活動・学習のために外に出る機会</li> <li>○自分の意見を家族以外の人にのべたり書いたりする機会</li> <li>○趣味のために時間をさいているかどうか</li> <li>○趣味のためにさく時間の量</li> </ul>
育児不安と関連がみられた項目* p<0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夫とふだん話す時間の量</li> <li>○近所づき合いの深さ</li> </ul>
特に関連が認められなかった項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母親の年齢</li> <li>○家族形態(核家族か、拡大家族か)</li> <li>○子どもの数</li> <li>○子ども(第1子)の年齢</li> <li>○母親の職業</li> <li>○父親(夫)が子どもと遊ぶ時間</li> </ul>